

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 思永 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

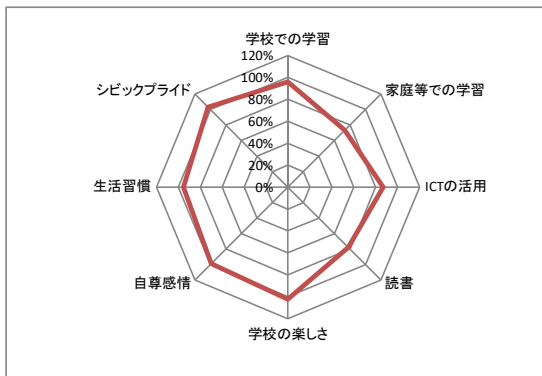
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	知識及び技能に関しては、全国平均を上回っており、特に「我が国の言語文化に関する事項」については大きく上回っている。思考力、判断力、表現力等に関しては、「話すこと・聞くこと・書くこと」について全国平均をやや下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	知識及び技能に関しては、全国平均と同程度であるが、思考力、判断力、表現力等に関しては、「図形」「関数」において全国平均を下回っており、記述式の問題については無回答率も高く、課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	自然数の意味を理解しているかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題	
英語	全体的な傾向や特徴など	「読むこと」に関しては全国平均をやや下回り、「聞くこと」「書くこと」に関しては全国平均を下回っており、知識及び技能の定着をさらに図る必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	日常的な話題について、自分が置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「人の役に立つ人間になりたい」「学校に行くのが楽しい」「今住んでいる地域の行事に参加している」という項目に関しては、全国平均を上回っている。 ・「家庭等での学習」「読書」に関する項目に関しては、全国平均を大きく下回っている。今後は、家庭学習・読書習慣の定着を図る具体的な取組（授業と家庭学習とのつながりを意図した課題の提示、ドリルアプリの活用、生徒が自分自身の学習目標を設定できるような支援など）を検討する。 ・今後も学校全体でICTの効果的な活用を含む授業改善を推進し、生徒が「わかった」「おもしろい」と実感する授業実践に努める。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○視覚的な教材やグループワークなど、さまざまな工夫をおこないながら生徒の興味関心を引き出し、知識・技能の定着を図る。また、生徒が自分の意見や考えを表現する機会を増やし、思考力、判断力、表現力（コミュニケーション能力を含む）等の向上を図る。
○GIGA端末を効果的に活用した教育活動を推進する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○ドリルアプリを活用して生徒が自主的に学習できるような工夫をする、図書館教育と関連付けて読書への興味関心を高め、読書習慣の定着を図る、など家庭学習の習慣・読書習慣の定着を目指す取組を検討する。また、取組の推進にあたっては、家庭との連携を充実させたい。